

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400410		
法人名	社会福祉法人 萩市社会福祉事業団		
事業所名	萩市中津江認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	山口県萩市大字椿東315-6		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市町受理日	平成22年12月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個性豊かな入居者・職員が多いながらも、それぞれの「自分らしさ」が発揮できる環境と雰囲気がある。「出来ること」「出来ないこと」をしっかりと把握しながら、入居者それぞれの「出来ること」が無理なく自然な形で行っている。 趣味活動(生花・裁縫・習字など)や、家事全般(洗濯・掃除・調理など)の内容が重なり、トラブルとなることもあるが、それぞれのやり方や思いを主張できるぐらいに、大半の事に入居者が関わっている。大きなトラブルとなる前に、職員が柔軟に対応するようにしている。 「家族との関わり」と「地域との繋がり」に重点を置き、外出支援や受診の付き添いなど、家族と入居者、家族と職員、地域との関係性をより強固なものとする為、関われる機会を多く作るようにしている。家族の面会も多く、家族・入居者・職員との良い関係性が築けている。居間においては、入居者と職員との関わりが非常に多く、歌声やダンス、笑いが絶えない時間が流れている。男性入居者も居り、職員の年代も幅広く、家族的な雰囲気がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験年数や年代層の異なる職員が配置されており、利用者と職員の関係も和やかで家族的な雰囲気が感じられました。職員を育てる取り組みが計画的に実施され、外部、内部、法人を問わず研修の充実振りと職員の意識の高さも伺われます。食事にバイキングを取り入れたり、運営推進会議に地区の消防団の方が参加されたり、馴染みの人や場所の関係継続の支援など、事業所としてのサービスの質の向上に取り組まれています。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての基本方針を柱に、事業目標・活動計画を作成し、実践に繋げている。全体会議やユニット会議を通じて、確認し共有するようにしている。中でも、地域との繋がりに力を入れて取り組みを実施している。	運営理念は玄関や職員休憩室に掲示され、管理者と職員は全体会議やユニット会議などの機会を促え、地域密着型サービスの意義を理解し共有して、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤の際には、日常的な声掛けや挨拶をするようにしている。また、利用者との散歩などの外出支援を行った際には、会話する機会を作っている。地域の清掃活動へ参加しながら、地域との関わりを持つように努めている。	散歩の行き帰りの挨拶、子ども達との交流や地域の清掃活動への参加のほか、萩全体を地域として捉え、道の駅の紅葉まつり、椿まつりなど四季の行事にでかけて人々との交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉委員やボランティア団体の見学を受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価票を全職員に配布し、職員それぞれの思いや取り組みを組み入れるようにしている。	評価の意義を理解し、全職員が記入して全体会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価や外部評価を実施することで、初心に戻り、職員一人ひとりの振り返りとなっている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加メンバーとして、民生委員・包括支援センター・在宅介護支援センター職員などにて実施している。日々の活動内容や外部評価の報告などしながら、意見を頂くようにしている。また、その内容を全体会議内で職員にも伝え、業務に活かすようにしている。	家族代表、利用者、民生委員、消防分団員、地域包括支援センター職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、近況報告、外部評価報告、災害時の対応、地域との協力体制(隣接の県営住宅の住人の見守り、看護師、民生委員との連携)などの意見交換をしてサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に出向く機会はあるが、市が来訪する機会がない。	介護保険課とは日常的なサービス実施に関してや困った時に相談にのってもらっている。地域包括支援センターとは、熱中症対策等の情報交換や相談も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議にて身体拘束についても研修を行っている。また、職員間で、話す機会を持ちながら、抑制・拘束のないケアに取り組んでいる。	基本方針を作成し、身体拘束を行わないことを遵守している。内部研修等で全職員は理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、鍵をかけることの弊害を理解し、見守り体制の工夫に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実は無いが、虐待防止法については研修等で学ぶ機会を持っている。また、職員間のケアをお互いに見つめ直すことで、常に注意を払いながら関わりを持つようになっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方の入所により、制度に対する知識を全職員が持てるように研修会を実施する必要性があるが、実施に至っていない。具体的な研修内容として、職員が身近なテーマとして考える機会を作っていきたいと考える。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、十分に説明し理解された上で署名・捺印をもらうようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情目安箱を設置し、意見を出しやすい環境作りに努めている。苦情としてはあがっていないが、面会の際には生活上の要望などを直接伺うようにしている。遠方の家族については、メールで交信し情報交換している。	相談、苦情の受付体制(外部機関等の明示)、苦情処理手続きの説明をし、家族の来訪時や行事の参加時に意見や要望を聞くと共に、気軽に意見を言える雰囲気作りを工夫している。遠方の家族とはメールで意見交換している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族の面会や運営推進会議を通じて、意見や要望等を聞きながら、運営に反映させるようにしている。玄関には、苦情目安箱を設置し、意見を出しやすい環境作りに努めている。	月1回、全体会議を開催し、運営に関する意見や提案を職員から聞く機会を設けている。ユニット会議の中でも職員からの意見、要望について話し合っている。	

萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ユニットで常勤14名、短時間2名を配置し、行事や通院、要望等に対応できるようにしている。 外出支援や家族との交流行事など、職員体制を整える必要がある際には、勤務変更を行うなどしながら対応するようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と希望に応じて、外部研修への参加をうながしている。施設内においても、全体会議やユニット会議での所内研修を職員間で実施するようにしている。	人材育成のため、職員に対して年間を通して計画的な内部研修の機会が設けられており、外部研修に出席した際には、全体会議において内容についての伝達研修を実施している。各ユニットごとに課題別の研修も行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡協議会へ加入し、研修会に参加している。また、萩・長門・下関地区のブロック研修会にも積極的に参加し、知識の習得や情報交換を行うようにしている。今後、同地区での交流や情報交換を行いたいと考えている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談が多いが、事前に連絡があった際には、できるだけ本人にも来所してもらいように依頼している。その時点での、本人の思いや不安を聞く一方で、在宅での生活の様子を把握する為、自宅やサービス先に訪問しながら、関わる機会を多く持つようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護する上で、家族が困っている事や不安な事を聞きながら、必要に応じてアドバイスや情報提供するようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ケアマネからの紹介が大半を占めるが、実情や要望を聞く中で、必要に応じて、他施設の情報提供や、居室情報を確認し提供するようにしている。情報提供した際には、担当ケアマネと連絡を取り、情報を共有するようにしている。		

萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の「出来る事」「出来ない事」をしっかりと把握し、同じ時間を共有しながら、コミュニケーションを多く持つようにしている。利用者から知識を学び、家事の中から技を教わるなど、お互いに対等な関係を持てるようにしている。一番大切にしている部分。		
20		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。自室や居間での団欒など、状況に合わせて環境を整えるようにしている。職員側からは日常の様子や気付きなど伝え、家族からは昔の様子を伺うなど、協力関係を持つようにしている。		
21	(10)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(自宅や美容院、スーパーや山・畑など)との関係が途切れないように、外出支援を積極的に行い、人や場所と関わる機会を多く作るようにしている。	利用者が、これまで利用していたスーパーや美容院などに行ったり、いつも気にかかっている自分の山や畑に出かけたりしている。利用者の誕生日など年1回は家族で過ごす機会を作ったり、知人や友人の訪問があるなど、染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
22		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事一つにしても、味付けや具材、切り方から盛り付け方まで、利用者それぞれのやり方があるので、トラブルとなることも多いように思う。が、それぞれを尊重できるように職員が間に入り支援するようにしている。皆が気持ちよく生活できるように、テーブルの配置や役割など、検討しながら見守るようにしている。		
23		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、他施設利用場所に足を運び、状態を把握したり、不安な家族に対しては、電話連絡するなど対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「好きな事」「出来る事」「興味のある事」など一緒に関わる事で、その日の思いに添って支援するようにしている。また、ケアプランの見直しを行いながら、利用者の思いや意向を実現できるように努めている。	本人の好きなことや関心のあることを詳細に把握し、利用者の思いや望むことは、日々のかかわりの中で表情や言葉に気をつけて介護記録に残すようにし、全職員で共有に努めている。困難な場合は本人の視点になって話し合っている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の関わりの中から情報収集を行いながら、カンファレンスにより職員と情報や状態を共有する。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バックグラウンドについても、しっかり把握し、入所後も在宅生活の中での役割を継続してもらえよう、「出来る事」と「出来ない事」をしっかりと見極めるようにしている。また、自分らしさ及び一日の生活の流れを把握し、日々の観察をしっかり行い、変化に対応できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向に添って介護計画書を作成するようにしている。意向についても、その都度確認しながら、状態に応じた計画書になるよう心掛けています。また、3ヶ月毎の見直し状況変化時には、その都度見直しを行っている。	職員全員で毎月全体会議やユニット毎の会議を開催し、利用者の要望、主治医の往診時の意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し、その詳細を介護記録としてパソコン入力している。また、職員間で連絡ノートを活用し、情報を共有するようにしている。3ヶ月に一度の見直し、1ヶ月毎にユニット会議にて、必要に応じてモニタリングを実施している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の要望に応える為に、生花や将棋・囲碁のボランティアを社協ボラコーディネーターを通じて来所してもらっている。その他、選挙や買い物、理美容に関しても、要望に応じて柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人希望による生花をボランティア(毎週火曜)の方が来所にて、H18年より継続して行っている。 同施設内のデイサービスにて、保育園児やボランティア団体の訪問の際には、参加するようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医が継続できるように支援している。土・日・祝日・夜間の救急対応は、救急当番医での対応となる為、常に確認しておき、スムーズに受診に結び付けられるようにしている。また、他科受診についても利用者・家族の意向を伺いながら実施し、必要に応じて家族の付き添いを依頼している。	利用者や家族の希望を大切にし、協力医療機関の受診やそれぞれの病歴に関わる医療機関での継続受診を支援している。情報提供も適切に行い、利用者が安心できる体制を整えている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内のデイサービス看護職に、処置を依頼することもある。また、医療的な知識や助言を求めることで、適切に対応するようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や情報提供書だけの情報収集だけでなく、担当Dr.や看護師へ治療状況を確認するなど、医療機関との連携を密に取るようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期での関わりを行っていない。病状が悪化した場合、本人・家族・係りつけ医と相談し、状態にあった病院や施設を検討している。	重度化した場合における話し合いの場を主治医や家族、関係者と持つようにしており、出来る限りその人の思いに寄り添うことの出来る柔軟な対応に心がけるようにしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント部会で、事故防止・ヒヤリハットについては検討している。毎月の全体会議において、事故報告書の内容と防止策について話し合う機会を持っている。事故報告後の様子観察期間についても、しっかり管理しながらおこなっている。応急手当や初期対応の研修について、今後実施していきたいと思う。	月1回の全体会議において、事故報告、ヒヤリはっと報告に基づく利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を検討している。応急手当や初期対応について実施を予定しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当と初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルあり。非難訓練を実施しているが、緊急時に利用者のとる行動が予測できない為不安もある。運営推進会議にて、災害時での協力を要請している。	年2回消防署の協力を得て、昼夜想定避難訓練を利用者と一緒に行っており、法人として非常時の備蓄もしている。今年度から運営推進会議に消防団員の参加があり、地域の理解を得る働きかけをしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇部会を中心にして、接遇研修を行いながら、利用者を尊重した声掛け・言葉使いを心掛けている。また、個人情報やプライバシーには、十分配慮しながら行っている。	マニュアルに基づいた研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや態度に気をつけるよう話し合っている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払うよう全職員が共有して取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や時間、飲み物やイベントでの選択メニュー、エプロンや茶碗・湯呑みの購入等、利用者が選択できる場面を少しでも多く作るようにしている。ユニットでの外出や遠足、パーティーの内容についても、利用者と相談しながら決めるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とのコミュニケーションを多く持つようにして、どのように過ごしたいか確認しながら、利用者主体を心掛けて関わりを持つようにしている。利用者個々のペースは大切にしているものの、職員側の都合になってしまう場面もある為、職員間での声掛けが必要と感じる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢にとらわれず、その人に合った「おしゃれ」が出来るように声掛けしている。起床時や外出時には、身だしなみを整える為に声掛けや、一緒に服を選ぶなど、行うようにしている。また、利用者によって、それぞれ行き付けの美容院に行くようにしている。		

萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・盛り付け・配膳・片付けまで、出来る所はやってもらっている。天気がいい日には、中庭やベランダにて、花を見ながら食事をするなど気分転換を図る時もある。職員も一緒に食事をするので、常に会話があり、楽しい食事時間を提供できているのではないかと思う。	昼食、夕食の副食は専門業者の配食であるが、利用者と職員と一緒に調理や盛り付け、片付けなどをして、食事を楽しんでいる。3ヶ月毎のバイキングが利用者にとっても好評である。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については、「日々の記録」にて記入し、把握するようにしている。利用者ごとに、一日のトータル摂取量を記入するようにしており、水分が不足しないように注意している。 「日々の記録」内での記録にて、毎日の水分記録を確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの見守り・介助を行なっている。夕食後には、義歯を外してもらい、朝まで水につけている。週1回(毎週日曜)にポリドントにて義歯洗浄を行なっている。 歯ブラシやコップについても、週1回消毒液にて洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの位置が分からなかったり、間に合わずに失禁が続いた利用者には、排泄パターンを把握し、日中・夜間ともに声掛けと必要に応じてトイレ誘導を行うなど、支援している。夜間のみ、ポータブルや尿瓶を利用している利用者もいる。	生活記録に記録して、利用者の排泄パターンを把握しており、時間帯に合わせ、声かけ、トイレの誘導を行っている。時間帯や一人ひとりに合わせて、ポータブルトイレや尿器を使っでの支援も行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促す為に、起床時の冷水や入浴時の腹部マッサージ、バナナジュースなどで対応している。		

萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前浴から午後浴まで、入浴時間には幅を持たせ、出来る限り希望やタイミングに合わせて入浴してもらえよう心掛けているが、職員側の都合で声掛けしている部分もある。体調を重視し、シャワー浴や足浴なども行い、無理の無いように配慮している。バスクリンを入れたり、浴室内で歌を歌うなど、楽しめるように工夫はしている。	希望をすれば毎日可能で、時間帯は午前10時半から午後4時までとなっている。入浴を嫌がる場合にはタイミングを見計るなど工夫をして支援をしている。入浴剤を入れたり、歌を唄うなど、ゆっくりと楽しめる工夫をすると共に、シャワー浴、足浴の対応もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安易に薬に頼らず、食事や入浴、昼間の活動増やすなどしながら、夜間ゆっくり休んでもらえるように支援している。個々の生活リズムを大切にしながらも、体調(バイタル)に応じて休息を促すなどの声掛けを行なっている。居間には、畳がありいつでも休息できるようになっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	翌日の内服薬は、前日夜勤者がセットするようにしている。利用者個々の服薬状況については、常にしっかり把握するように心掛けている。薬の説明書をカルテ内にてすぐに確認できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や習字、生け花や園芸、塗り絵や貼り絵など、趣味を活かせる場を多く作るようにしている。また、日常生活の中で、掃除やゴミ捨て、調理、花の水遣りなど、その人の特性を活かせる活動を担ってもらうことで、活躍できる、張り合いのある生活を支援している。	習字、活け花、ぬり絵、将棋、読書などの他、日常生活の中での洗濯物たたみ、掃除、花の水遣りなどできることや生活の張り合いとなるような場面作りを支援している。また、ユニット交流でラジオ体操をするなど気分転換等の工夫もしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など外に出る機会を作り、気分転換を図るようにしている。外に出る事が好きな利用者が多い為、施設周りの草取りをしたり、近所のコンビニへ買い物に行くこともある。また、自宅や馴染みのある地域への外出や、距離を伸ばしての外出(バス遠足や足湯など)する機会を作りながら、普段とは違う場所への外出を計画し実行した。	利用者の状態や希望に応じて、散歩やスーパー、コンビニなどへ買い物の出かけたり、家族にも声をかけ年2回(春、秋)のバスハイクや四季の花見や足湯へ出かけている。また、個別対応の外出支援もしている。	

萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者が多い為、本人・家族には説明・了承してもらい、大きなお金に関しては施設にて預かっているが、小さいお金に関しては管理中の利用者もいる。外出の際など、希望時にはいつでも出金できるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい場合、必要に応じて電話をかけたりと対応している。また、年賀状や暑中見舞いを出すなど、本人と家族との関係を良好に保持できるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間においては、食事前の匂いや包丁の音などの生活感があり、中庭・ベランダにおいては花や野菜など季節感が感じられるようにしている。居間や廊下には、壁面として折り紙アートや行事の写真など配置するようにしている。テーブルの上や棚には、花を飾り温かみの雰囲気がある。居間や廊下に隠れ处的な場所を作り、プライベートな空間が自室以外にも確保できるように工夫している。	大きなガラス窓は明るく、中庭の花々、ベランダのプランターの野菜等で季節を感じ、共用の空間には観葉植物、職員が描いた似顔絵、日めくり、畳の間があり、玄関にはパッチワークのカレンダー、廊下には絵画、行事の写真、プライベート空間と一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮がしてある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルや畳、ソファや廊下の椅子などそれぞれの場所がある。中庭には、テーブルと椅子、ベランダには椅子をを設置し、花・草木を眺めながらの居場所を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や冷蔵庫、テレビ・コタツなど、自宅で使用されていた物を持ち込んでいただいている。ベッドだけでなく、畳を敷いている方も居る。 本人の大切なものや、家族の写真、グループホームでの生活の写真などを配置されている。	持ち込む物については家族と話し合い、テレビ、机、衣装ケース、冷蔵庫、人形、目覚まし時計、パッチワークの敷物などの使い慣れた物、好みの物が置かれ、安心感を持って過ごせるよう心がけている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事をしっかりと見極めながら、可能な事は出来るだけ実施してもらっている。利用者個々に合った関わりを実践している。廊下には、椅子や畳を置き、随所に休むスペースを確保している。		

2. 目標達成計画

事業所名 萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 22年12月 7日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27 28	・ケアプラン作成について ひびのモニタリングがケアプランに反映されていないことがある。	・日々のモニタリングが十分に反映されているケアプラン作成ができる。	・スタッフに対し、ケアプラン作成についての勉強会を集団、個別に行っていく。 ・介護支援専門員がケアプラン作成について適切な助言や指導ができるよう体制を整えていく。	1年
2	11	・看取り体制について 当グループホームでは看取り体制を実施していないが、看取りを期待する家族が多く、今後導入の必要性を感じている。	・看取り体制導入に向け、段階的に体制を整備していく。	・人員配置等の見直し、人材確保。 ・スタッフへの再教育。“看取り”を導入している施設への見学や研修への参加など。	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。